

「今後の治水対策の進め方」 骨子

従来の考え方（H8 大阪府河川整備長期計画）

府域全ての河川で、一生に一度経験するような大雨（時間雨量 80 ミリ程度）が降った場合でも、川があふれて、家が流され、人が亡くなるようなことをなくす。

- * 目標達成には 1 兆 400 億円、約 50 年必要
- * 府民が対策の効果を実感できない
- * 治水施設で防げない洪水に対する総合的なリスク対策が必要

今後の治水対策の進め方

20~30 年の当面の治水目標を設定

【基本的な理念】人命を守ることを最優先とする

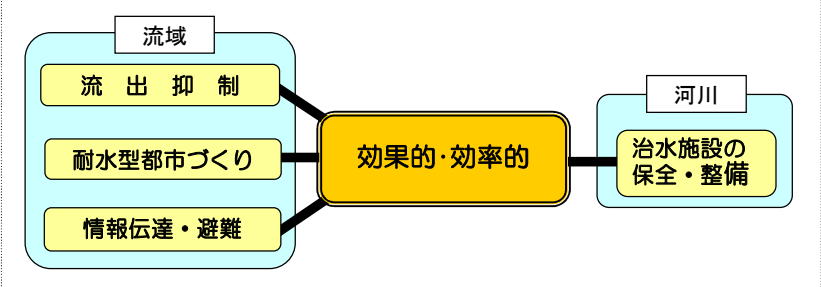
【取り組み方針】

- [1] 現状での河川氾濫・浸水の危険性に対する府民の理解を促進する。（「フォワードコメント」）
- [2] 「逃げる」「凌ぐ」施策を強化するとともに「防ぐ」施策を着実に実施。
- [3] 府民が対策の効果を実感できる期間（概ね 10 年）での実現可能な対策及び実施後の河川氾濫・浸水の危険性をわかりやすく提示する。

【今後 20~30 年の当面の治水目標】

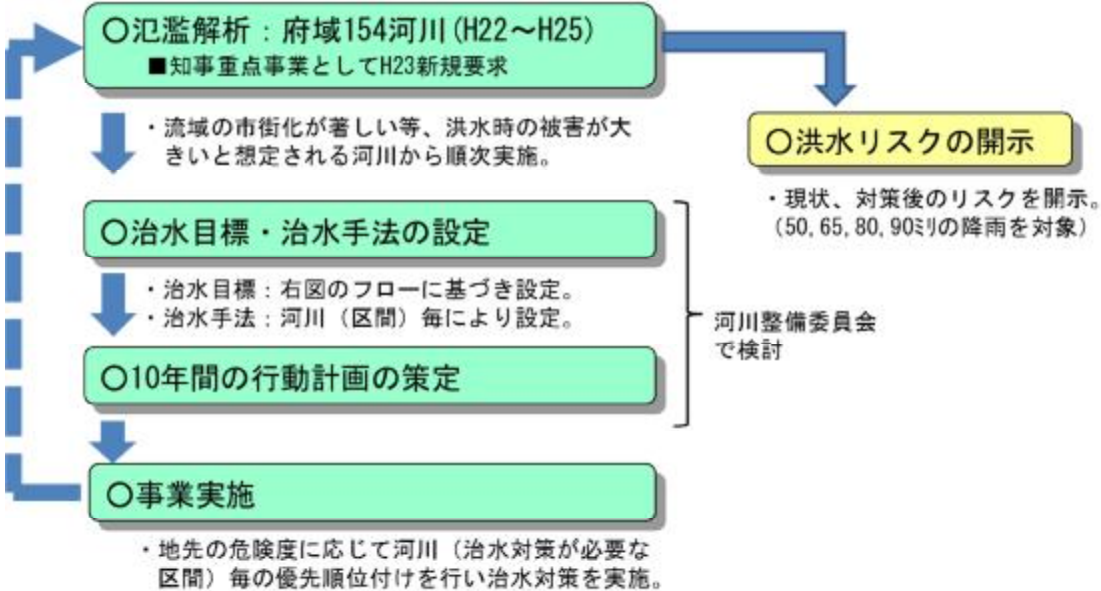
時間雨量 50 ミリで床下浸水を発生させない、かつ少なくとも 65 ミリで床上浸水を発生させない
→河川毎の治水目標を仮設定し、目標達成に必要な総事業費を算定：4 千~5 千億円（粗い試算）

【総合的・効果的な治水手法の組み合わせ】

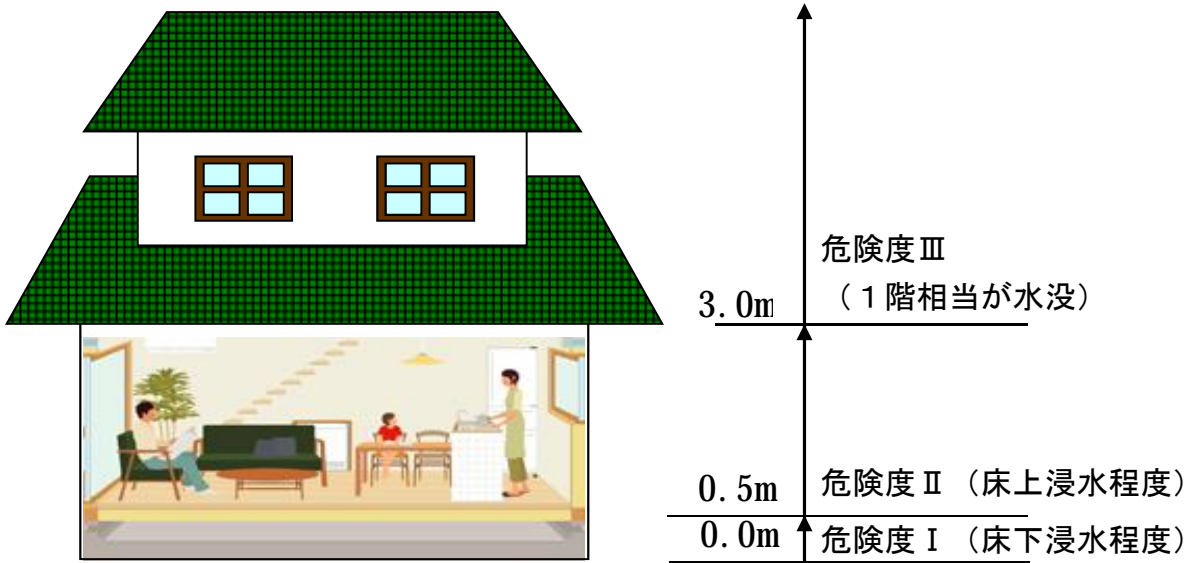


※治水手法を組み合わせた 10 年間の行動計画を河川毎に策定

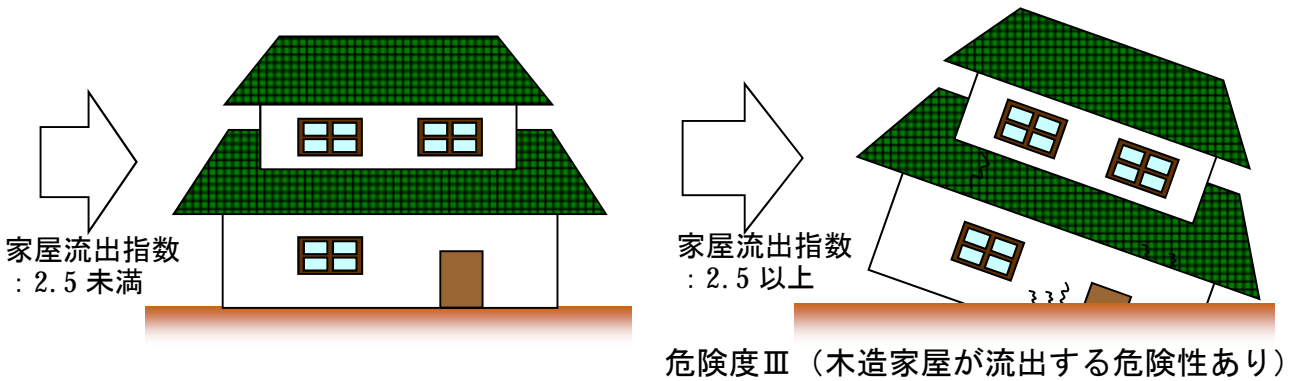
【今後の進め方】



【想定浸水深による区分】



【家屋流出指数による区分】



【当面の治水目標設定フロー】

